「さがクリークネット」まちづくり大賞

日本建築士会連合会表彰

優れたまちづくり活動を表彰する日本建築士会連合会の第12回まちづくり賞で、「佐賀城下のクリークを活かしたまちづくり」を進める「さがクリークネット」（川﨑康広会長）が大賞に輝いた。佐賀特有のクリーク（水路）を生かし、地域住民と一緒になって水辺で暮らす豊かさを感じてもらう取り組みが高く評価された。

「まちづくり大賞」の受賞を喜ぶ「さがクリークネット」のメンバー＝佐賀市

まちづくり賞は隔年で開催し、今回は全国から27団体の応募があった。1次審査を通過した上位7団体がプレゼンテーションをする公開選考会が10月に行われ、さがクリークネットが最高賞の「まちづくり大賞」に選ばれた。

さがクリークネットは、佐賀市中心部に今も張り巡らすクリークを、先人と同じように「普段使い」しながら引き継いでいくのを目的に2015年から活動している。川﨑会長が理事を務める佐賀県建築士会をはじめ、地域住民や行政、佐賀大などに声をかけ、船着き場を設けてカヤック体験をしたり、水辺でマルシェを開いたりしてきた。「活用のためには保全が必要」と川掃除も実施している。

川﨑会長は「活動を通してまちなかの居住者の増加や歴史遺産の認識向上、観光創出などを横のつながりで考え、さまざまな地域課題の改善につながると考えている」と語る。クリークの中に作った広さ2坪の「川床（かわどこ）」を、遊びや飲食などに自由に使ってもらう取り組み（11月30日まで）も展開している。

大賞を受けて川﨑会長は「水路沿いの庭をきれいにし水辺にデッキを造ったりするなど、あちこちで水辺を活用した暮らしが出てくれば、より豊かさを感じられるまちになる」と地域の今後の姿を思い描き、佐賀に合った持続可能なまちづくりにつながることを期待する。

さがクリークネットは2019年度に、佐賀新聞など地方新聞46紙と共同通信社が開催する「第10回地域再生大賞」の九州・沖縄のブロック賞に輝いている。（北島郁男）

カヤック体験やマルシェ開催　水辺で暮らす豊かさ発信

10月に開いた水辺フェスティバルで、川床で水辺パーティーを楽しむ参加者＝佐賀市の松原神社北